



伊能歌舞伎保存会による迫真の演技

伊能歌舞伎を奉納

大須賀大神例大祭

大栄地区に春の訪れを告げる風物詩「大須賀大神例大祭」が、4月21日に開催されました。この祭りは「伊能のおあそび」とも呼ばれ、地元の人たちに親しまれています。あいにくの雨の中での開催となりましたが、午前は大須賀大神前の県道に、万灯が練り出され、鮮やかな衣装で着飾った女性たちが祭りばやしに合わせて踊る道中踊りが披露されました。また午後は境内で、市指定無形民俗文化財に指定され、祭礼の奉納芝居として約300年もの歴史をもつ伊能歌舞伎(仮名手本忠臣蔵九段目「山科閑居の場」)が上演されました。



雨の中、県道に練り出された万灯



生江部会長(左)にうなりくんのぬいぐるみを手渡す藤田副市長

「運氣上昇のまち成田」をPR

経団連で講演

国内の代表的な企業などから構成されている日本経済団体連合会(経団連)の観光委員会企画部会が4月17日、経団連会館(東京都千代田区)で行われ、藤田副市長が講演を行いました。副市長は、成田ブランド事業の今までの取り組みと「運氣上昇のまち成田」を基本理念とした今後の方向性について説明。その後、委員たちと意見交換などを行いました。

手と手を取り合い朗らかに

チャリティーフォークダンス大会

参加者から募金を募り、福祉に役立ててもらおうと「チャリティーフォークダンス大会」が4月15日、保健福祉館で開かれました。参加者は、普段は老人福祉センターや公民館のフォークダンスサークルで活動している人など96人。色とりどりの衣装に身を包み、ペアになったり、輪になったりしてダンスを楽しみました。募金は7万3,652円集まり、社会福祉協議会に寄付されました。



オクラホマミキサーの曲に合わせて

さくらの山をゆったり泳ぐ

こいのぼり

こどもの日を中心に、市内各地で大小さまざまなこいのぼりが人々の目を楽しませました。さくらの山では、駐車場脇に張られたワイヤに、家庭などで不要になったこいのぼりや新しく購入されたうなぎのぼりなどが地元の人たちの手で作られ、風に吹かれて泳いでいました。さくらの山から望む飛行機の離着陸を撮影しようと訪れたカメラマンたちも、季節の風物詩とばかりに、飛行機と一緒にこいのぼりやうなぎのぼりをカメラに収めていました。



離陸する飛行機を背景に泳ぐこいのぼり



うなぎのぼりも元気



陽気にぎやかなパフォーマンス(14日)



千願華太鼓に参加(13日)

春を盛り上げる打楽器の響き

成田太鼓祭に井邑市農楽団

打楽器の力強い音色が街を盛り上げる「成田太鼓祭」が4月13日・14日、成田山新勝寺や表参道を中心に開催されました。成田市の友好都市である韓国・井邑市チョンウツプからも農楽団が参加。朝鮮に古くから伝わる民俗芸能、農楽をアレ

ンジした「サムルノリ」を披露しました。14日の太鼓パレードでは、さまざまな打楽器を打ち鳴らすサムルノリのリズムに乗って、表参道を練り歩く姿に観客からは盛んな拍手が送られました。



表千家のお点前を披露

風雅な庭園で一服

不動の大井戸茶会

成田山新勝寺のお不動様に供えたとされる井戸水を使った「不動の大井戸茶会」が、4月14日～29日の土・日曜日、祝日に開かれました。会場は、水をくんだ井戸があった、米屋総本店内のお不動様旧跡庭園。当時の井戸は今はもうありませんが、同じ水脈から清水が、現在も湧き出ています。枯山水の庭園で野だての実演が行われ、お茶とお菓子が振る舞われました。参加者は、名水で入れたお茶の味と香りを思い思いに楽しんでいました。